

さいたま市桜環境センター みんなが主役の環境コミュニティの形成 ～つながり協働し高め合う、持続可能な地域づくり～

(株)クリーン工房 えがしら たかひろ
事業開発部 部長 江頭 高広

写真1 さいたま市桜環境センター

◆桜環境センター持続可能な運営

さいたま市桜環境センター(写真1)は、ごみ焼却時の熱を利用した温浴機能の余熱体験と、環境について学べる環境啓発施設を整備して2015年4月1日にオープンし、年間約34万人以上の方にご来館いただいております。

さいたま市桜環境センターの運営は、設計・建設・維持管理等と一括して当社を含む民間事業者が発注されました。

持続可能な事業を実施するには、企業だけでは限界があり、市民協働による地域人財の活用により、施設とともに地域も成長していく「しくみづくり」を構築しました。運営を担う市民団体には、設計段階から事業にかかわっていただき、市民目線による運営イメージを設計に反映しました。その結果、設計と運営のギャップが少なくなり、運営のしやすい施設が可能となりました。

◆市民が運営し成長し続ける施設

市民団体が運営に携わることで、市民目線をとり入れた運営が可能となり、環境への取り組みが「自分事」として地域に広がっています。本施設は、市民が主役であり、市民の声で事業展開を行うといった、中間支援組織での運営により、

施設を効果的に活用し、地域ネットワークの拡大を構築しております。

環境問題に関心な市民に、いかに環境に興味をもってもらえるか、プログラム、イベント等の展開により、ライフスタイルの中で環境問題についての取り組みを実践してもらえるよう工夫しております。「捨てればごみ、使えば資源」の考えのもと、「3Rマーケット」(写真2)による「大切にしてきたものを、大切に引き継いでいく」ための、市民のためのリユースマーケット等を展開し、「施設から地域へ」環境への取組意識の向上に繋げ、「循環型社会」の形成を目指しています。



写真2 3Rマーケット

◆エコロジーを楽しく学ぶ取り組み

桜環境センターでは、エコロジー(エコ)について身近な問題・身近な素材をもとに考え、そこから広がっています。

例えば、トイレットペーパーの芯は、捨てるだけでありますが、この芯を使ったアート作品を作る講座等を開催しています。新聞紙も貴重な材料となり、エコバックや丈夫なごみ箱に変身します。いつも身近にある材料ならすぐ実践でき、エコについても自身の問題として考えることができます。

日本に古くからある「もったいないの気持ち」を大切に、講座を行っています。

「一閑張り(竹細工製品の補修方法)」、「金継ぎ(かけたり割れた茶碗を漆で接着再生)」、「布ぞうり・吊るし雛づくり」など、講座に参加者が集い、施設を定期的に利用し腕を磨いています。これは、エコという取り組みを超えて居場所作り、交流の場作りにもなっています。多世代の方々が集まり、日本の文化・伝統を楽しみながらそれを継承しています。

◆市民ネットワークの拡がり

施設を活用している団体を対象に、持続的な活動を目指し、「3回連続広報講座」を開催し、広報講座で学んだ「プレゼン・チラシ作成・SNS発信」を活用して年1回の大型イベント「桜エコ・フェスタ」を実施しています。

毎年実施している「桜エコ・フェスタ」においては、市民が主となり実行委員会を立ち上げ、約30団体の市民団体と授産施設とともに、楽しく環境を考える体験イベントを開催しております。環境の大切さを考え活動をしている、市民団体や企業などがイベントを通して、日頃の活動の成果や作品の展示、販売によりPRを行い、音楽ライブやさまざまなパフォーマンスにより、環境に関心な層が施設に足を運ぶ「キッカケ」を作ります。また、「桜エコ・フェスタ」をキッ

カケに市民団体同士の繋がりが生まれ、コラボして活動をする団体へと展開し広がっています。

例えば、「エビネクラッカー」。これは、ネギを生産されている福祉団体とカフェを運営する障害者団体がコラボして、エビ・ネギを入れたクラッカーを製造、昨年のエコ・フェスタで大好評でした。これなどはお互いの得意技を活かした好例でしょう。

◆市民団体、企業、行政協働の必要性

施設運営における市民のキーパーソン、企業における支援、行政による施策により、環境問題への取り組みが、地域や行政課題を解決し、すべてにおいて「ALL-WIN」となる協働が持続可能な地域づくりと考えています。

2018年度は、行政の方針に沿った他施設との連携や活動範囲の拡大、また、2018年より市民団体との協働で、環境省が推進している国民運動「COOL CHOICE(賢い選択)」(写真3)事業に取り組み、市民の方への賛同者を募集しました。さらに環境に関する企業セミナーを実施し、企業のCSRの取り組みや未来に向けたメッセージを発信しました。今後も継続的に実施し、環境問題に関し持続可能な社会づくりに取り組んでいきます。



写真3 桜エコフェスタ